

令和 7 年 4 月 21 日

(※受付番号 )

大阪市総合教育センター  
教育振興担当 実践研究グループ  
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校園コード (代表者校園の市費コード)
751732

代表者	校 園 名 :	長原小学校
	校園長名 :	市場 達朗
	電 話 :	06-6708-0105
	事務職員名 :	小野 麻朝
申請者	校 園 名 :	長原小学校
	職名・名前 :	教諭 小倉 諒馬
	電 話 :	06-6708-0105

### 令和7年度「がんばる先生支援」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究 (2年目)
2	研究テーマ	<b>ICTを活用した学校づくり ～ICT機器を文房具のように使う～</b>			
3	研究目的	<p>～ICT機器を文房具のように使うために～</p> <p>1. 各教科におけるICTを活用した授業展開 「SKYMENU Cloud」「Google Classroom」「デジタルドリル」等、各アプリケーションに沿った活用方法を考えていく。</p> <p>2. 情報教育の充実 情報活用能力・情報モラル・プログラミング教育の3点について、学校全体で取り組んでいけるように計画し、実行していく。</p> <p>3. 校務の情報化 教職員の業務改善・効率化を行うため、生成AIなどのツールを使い、どのような場面で使用していくことができるのかを模索していく。</p> <p>4. 情報化の推進体制 情報化を推進していくために、定期的に校務分掌部会を開き、情報共有していく。また、教職員のICT活用指導力を身につけるため、計画的に研修も行っていく。</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p style="text-align: center;"><b>長原小学校の現状は学習者端末の使用率が30%以下であり、端末の持ち帰りも1年に1回の接続テストのみ</b></p> <p>(2)継続研究 [2年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>昨年度は学習者用端末の使用率を上げていくため、様々な取り組みを行い、使用頻度を高めていくことができた。しかし、教員一人ひとりのICTスキルは高まったが、学校として系統立てて進めることはできなかった。そこで、今年度は4本の柱を立てて、系統的に研究を進めていく。子どもの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて、「各教科におけるICTを活用した授業展開」それを支える「情報教育の充実」「校務の情報化」「情報化の推進体制」の研究を進め、学校として自走できる環境づくりを目指していく。「各教科におけるICTを活用した授業展開」では、教員一人一人が各アプリケーションを選び、その事例を作成し、共有していくことができるようにする。「情報教育の充実」では、情報モラルや情報活用能力、プログラミング教育などを系統立てて計画していき、各学年における到達目標を設定して、各学年で進めていくことができるようにする。「校務の情報化」では、生成AI「Copilot」「Chat GPT」等のアプリケーションを使用し、業務改善・業務の効率化をどのように行うことができるのか模索していく。「情報化の推進体制」では、教員のICTスキルを高めるために、定期的に校務分掌部会を開き、ICT活用の情報共有を行ったり、スカイメニューやクラスルーム、Canvaなどの各アプリケーションの研修会を開いたりしながら教員自身のスキルを高めていくことができるようにする。</p> <p>(3)継続研究 [3年目]</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月【研究企画会】 ・研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討する。 【ICT推進委員会①】 ・研究内容の焦点化を図る。 ・児童アンケート、教員アンケートを作成する。</p> <p>5月【ICT研修会①】 ・年間計画の共通理解を図る。 【ICT推進委員会②】 ・児童アンケート、教員アンケートの実施、分析 ・情報モラル、情報活用能力、プログラミングの年間計画作成 【ICT研修会②】 ・各アプリケーションにおけるICT活用方法事例検討会</p> <p>6月【授業研究会①】 7月【授業研究会②】 8月【ICT研修会③】 ・プログラミングロボット操作研修会 【ICT研修会④】 ・家庭学習事例検討会</p> <p>9月【授業研究会③】 10月【授業研究会④】 【授業研究会⑤】 11月【授業研究会⑥】 12月【ICT推進委員会③】 ・児童アンケート、教員アンケートの実施、分析</p> <p>1月【がんばる先生支援 研究発表会】 2月【ICT推進委員会④】 ・がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p>3月【ICT推進委員会⑤】 ・研究のまとめ作成 【研究全体会】 ・次年度にむけて、本年度の成果と課題の共通理解</p> <p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組内容を記載してください。 令和7年12月5日、大阪市総合教育センター内シナジースクエアで行う、<b>がんばる先生支援研究発表の指導助言・研修会</b>（Canvaの活用方法等） Canva Education Senior Manager坂本良晶先生、講師派遣予定</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。 <b>理由</b> 新たに情報教育・生成AIなどの活用の検証を付け加えたため</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>(2)大阪府教育振興基本計画に示されている、「<b>子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力</b>」の育成および、「<b>教員の資質や指導力</b>」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに<input checked="" type="checkbox"/>を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>校内研修を充実させることによって、ICT機器の使用頻度を高め、個々のICTスキルが向上する。</p> <p>《検証方法》 教員アンケートの「各アプリケーションを取り入れて授業を実践することができた」の項目において、肯定的な回答を85%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>情報活用能力・情報モラルのチェックリストを用いて現状を把握し、計画立てて進めていくことにより、学校全体で情報教育を推進していくことができる。</p> <p>《検証方法》 年度末の児童アンケートの「タブレットのルールを守って使うことができた」「自分で文字を入力してタブレットを活用していくことができる」の項目において、肯定的な回答を85%以上にする。</p>

<p>6</p>	<p>見込まれる成果とその検証方法</p>	<p><b>【見込まれる成果3】</b>  <input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上                  生成AIツールなどを用いて、教職員の業務改善や効率化を図る。</p> <p>《検証方法》                  教員アンケートの「ICTのツールを使って業務改善が行えた」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする。</p> <hr/> <p><b>【見込まれる成果4】</b>  <input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成  <input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上                  授業や家庭学習等で学習者用端末を使用することで、児童の学習意欲を高め、自分から進んで学習しようとする態度を育てることができる。</p> <p>《検証方法》                  年度末に児童アンケートを行い、「自分でタブレットを使い、学習を進めることができた」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする。</p>						
<p>7</p>	<p>研究成果の共有方法</p>	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="406 1037 1455 1108"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 12 月 5 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市総合教育センター シナジースクエア</td> </tr> </table> <p>◆【必須】 wakū<sup>2</sup>.com-bee掲載による共有</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="406 1193 989 1265"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 2 月 27 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 7 年 12 月 5 日	場所	大阪市総合教育センター シナジースクエア	日程	令和 8 年 2 月 27 日
日程	令和 7 年 12 月 5 日	場所	大阪市総合教育センター シナジースクエア					
日程	令和 8 年 2 月 27 日							
<p>8</p>	<p>代表校園長のコメント</p>	<p>1. 新規研究（1年目）                  大阪市教育振興計画の最重要目標3「学びを支える教育環境の充実」基本的な方向6「教育DXの推進」の目標達成に向けて、全職員でICT教育に取り組む所存である。視聴覚教材や学習者用端末の効果的な活用方法を工夫して、情報活用能力を系統的に育成することができる指導方法について研究を進めていく。</p> <p>2. 継続研究（2年目）                  昨年度の研究から教職員のICT機器活用への抵抗感はかなり払拭できてきた。授業や学校行事等で積極的にICTを活用する姿は見られるようになった。そこで、今年度は各教科におけるICTを活用した授業展開や生成AIを活用した校務の情報化にも研究の幅を広げて、子どもにとっても、大人にとっても文房具のように当たり前にICT機器を活用できる校内体制を構築していきたい。そのためには、本校で目指している「3つの力（自分も人も大切にできる力・自分で考えて行動する力・自分からチャレンジする力）」を子どもも大人も、自分から自分らしく最大限発揮していく必要がある。そして、大人が自分たちのやりたいことができ、やりがいのある、がんばる姿を具現化することこそが、子どもの興味・関心を引き出し、子どものやりがいにつながると確信している。「大人が変われば、子どもは変わる」</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						